

# Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 111019152



www.hiroki-yoshimoto.com

## Race Report

15-16 October 2011 / SUPER GT SERIES Round\_8 (Final Round) MOTEGI

最終戦で速さを取り戻したtriple a vantage GT2、  
最後は表彰台に一步届かずも、見事4位でチェッカー

【Result】

10.15 FP : 5 th (2'04"314)

10.15 Q1 : 2 nd (2'04"029 / 吉本大樹)

10.15 Q2 : 5 th (2'05"035 / 吉本大樹)

10.15 Q3 : 6 th (2'05"957 / 星野一樹)

Starting Grid : 6 th

10.16 FP : 13 th (2'08"431)

10.16 Final : 4 th (8 pt)

Series Ranking (Drivers/Team) : 8 th/8 th



【公式練習・予選】 2011.10.15 (Sta)

triple a vantage GT2、雨のKO予選で久々の快走  
最終戦の決勝6番グリッドを獲得！

■公式練習	【天候】	雨	【コース】	ウェット	【気温・路温】	22℃・22℃
■予選Q1	【天候】	雨	【コース】	ウェット	【気温・路温】	開始時: 22℃・22℃ 終了時: 20℃・22℃
■予選Q2	【天候】	雨	【コース】	ウェット	【気温・路温】	開始時: 21℃・22℃ 終了時: 21℃・22℃
■予選Q3	【天候】	雨	【コース】	ウェット	【気温・路温】	開始時: 21℃・22℃ 終了時: 20℃・22℃

5月からスタートした2011年のAUTOBACS SUPER GT SERIESも、遂に1戦を残すのみとなった。その最終戦の舞台となるツインリンクもてぎは、回り込むコーナーが短い直線で繋がる、いわゆる“ストップ&ゴー”タイプのレイアウト。多くのドライバーが「オーバーテイクの難しいサーキット」と口を揃え、故にレースは混戦になりやすく、決勝ではスタート時から前のポジションにいないと苦しい展開を強いられる。そのため予選は各陣営共に一つでも前のポジションを奪い取ろうと全開でのアタックを敢行する事になる。今回の予選はQ1、Q2、Q3と3つのセッションで下位タイムのマシンが脱落していくノックアウト方式。Q2とQ3のアタックは1人のドライバーが連続して走る事が禁止されている為、2人のドライバーが交互にアタックする事になり、両ドライバーの総合力が問われる戦いとなる。さらに最終戦はウェイトハンデが全て無くなっており、まさにシーズン最後の雌雄を決するガチンコ勝負が展開される事となる。

そんな激しい戦いが予想された予選に挑んだtriple a vantage GT2。午前中に行われたフリー走行ではウェットコンディションの中、「深溝、浅溝と色々試したが、今回からヨコハマタイヤさんが用意してくれた新しい浅溝が良かった」と、ますますの好感を得て5番手タイムをマーク。そしてその好感を基に浅溝タイヤで挑んだ予選Q1セッション。ここでまずコースに出たのは星野選手。するとその星野選手はフリー走行の好調をそのままに3周目の計測で2'04"914を記録、この時点でのトップタイムをマークして吉本大樹へとステアリングを託していく。するとNEWタイヤでコースに入った吉本もここから見事なアタックラップを見せる。こちらも星野選手と同じく計測3周目のアタックラップで2分3秒台に迫る2'04"029をマーク。最終結果では圧倒的な速さを見せる4号車(初音ミクグッドスマイルBMW)に届かなかったものの、見事2番手でQ2セッションへの進出を決めて見せた。

そしてその予選Q2セッションでステアリングを握ったのは吉本大樹。最後の予選Q3に進めるのはトップ10のみだが、吉本はQ3でNEWタイヤを残す為Q1で使用したUSEDタイヤでアタック。Q1のタイムこそ更新出来なかったものの、4周の計測で危なげなく2'05"035をマーク。5番手でQ3進出を決定する。そして最後のQ3でマシンに乗り込んだのは星野選手。ところがこのセッションの開始直前には雨脚が徐々に強まりだし、ライバル勢の中にはここで深溝のタイヤを選択しコースに向かうマシンも出始める。それでもtriple a vantage GT2はフリー走行での感触から浅溝タイヤでのアタックを選択、浅溝タイヤにとっては微妙に雨量が多すぎるか...というコンディションの中、星野選手がコースへと入っていく。その星野選手は計測1周目は2分10秒台、2周目は2分15秒台でコントロールラインを通過、ワンアタック勝負を賭け計測3周目へと入っていく。すると星野選手は見事このラップで6番手タイムとなる2'05"957を記録。中盤戦以降、予選アタックで苦しみ続けてきたtriple a vantage GT2にとって久々の上位進出を果たし、翌日の決勝は6番グリッドからスタートを切る事となった。

11' SUPER GT SERIES Round\_8 / MOTEGI

2011.10.15 (Sta) Free Practice & Qualify

Text : www.hiroki-yoshimoto.com

PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&I

VAPSn XPEL  
Car Protection Specialist

osaka hall

TAKAI  
CORPORATION INC.

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED

HY Management Co., Ltd.  
info@hy-management.com  
www.hiroki-yoshimoto.com



# Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 111019152-2



www.hiroki-yoshimoto.com

## Race Report

15-16 October 2011 / SUPER GT SERIES Round\_8 MOTEGI

【決勝】 2011.10.16 (Sun)

最終戦で速さを取り戻したtriple a vantage GT2、  
決勝は表彰台に一步届かずも、見事4位でチェッカー

■フリー 【天候】 雨 【コース】 ウェット 【気温・路温】 21℃・22℃  
■決勝 【天候】 晴 【コース】 ドライ 【気温・路温】 26℃・33℃

予報では天候の回復が伝えられていた日曜日のツインリンクもてぎ。朝方までは雨が降り続き午前9時からのフリー走行はウェットコンディションとなったものの、その後天候は予報通りに回復。決勝は一転してドライコンディションでのスタートが切られる事となった。

このためスタート前のウォームアップセッションは通常より5分長い13分間で行われることとなり、この間にドライでのセットアップやタイヤ選択を慌たせこなした各チームは、まばゆい日差しの中、午後2時09分についに今季最終戦をスタートした。このスタートでtriple a vantage GT2のステアリングを握ったのは星野選手。その星野選手は序盤から好位置をキープ、ピットスタートから他を圧倒するペースで食い上げてきた33号車(HANKOOK PORSCHE)にこそ先行を許したものの、88号車(JLOC ランボルギーニRG-1)、43号車(ARTA Garaiya)らとの3番手争いを展開し、20周目に好位置をキープしたままピットイン。ここで吉本大樹に今シーズン最後のスティントを託していく。



このピットストップでは10秒程のロスがあり13番手でコースに戻ったtriple a vantage GT2。ステアリングを受けた吉本は「コースに出てからしばらくして他力本願じゃないと表彰台は難しそうだとすぐ分かったけど、とにかく可能な限りプッシュした」とここから徐々にポジションアップ。他のマシンのピットルーティーンもあり、23周目に11番手、24周目には10番手、さらに26周目に9番手にまで浮上していく。しかし前半のスティントで星野選手を苦しめたフロントタイヤのグリップ不足がこのスティントでも吉本を苦しめる。それでも吉本はリアのタイヤを重点的に使ってマシンバランスを自ら作り上げながらハイペースを維持するという、経験を駆使した走行で周回を重ね、気がつけばその後35周目には6番手、そして38周目には5番手にまで浮上、さらにレースも終盤となる44周目にはシリーズタイトルを争っている11号車(JMGANER DXCEL DUNLOP 458)に次ぐ4番手にまでポジションアップを果たしていた。

この時点でフロントとリアのバランスを取る為に酷使してきたリアタイヤは大幅なグリップダウンが始まっていたものの、更にプッシュして前を行く11号車との間にある10秒ほどの差を詰めていきたい吉本大樹。しかしすぐ背後には88号車(JLOCランボルギーニRG-1)が迫ってきており、バトルをしながらの展開でなかなか11号車においつくことが許されない。吉本にとって非常に苦しいチェッカーまでの道のりが続く。しかもここまで素晴らしい追い上げを見せてきた裏で、「実はヘルメットのダクト等に繋ぐエアコンのホースが何をしてもすぐに外れてしまい身体への冷却がほぼゼロの状態だった」と、ドライバーの体に対する唯一のクーリングシステムを失い脱水症状に見舞われながら、そんな状況を微塵も感じさせない好ペースでレースを進めていた吉本大樹。しかしそんな状態で激しいバトルを駆け抜けてきた事もあり、最終ラップはまさにマシンもドライバーも満身創痍の状態であった。それでも最終戦をひとつでも前のポジションで終えるべく意地の走りを見せた吉本大樹 & triple a vantage GT2は最終ラップまで続いた88号車との激しいバトルを辛くも制し、見事4位でチェッカー。開幕戦での優勝から一転、苦しみ抜いた中盤戦以降の不振を払拭する結果を残し、2011年のシリーズをランキング8位で終える事となった。



これでシーズンのシリーズ戦は全て終了した2011年のSUPER GT SERIES。最後に残るは11月11日~13日に行われるJAF杯でのガチンコバトルのみ。昨年の同レースでは激しいトップ争いの末、悔しい幕切れを経験している吉本大樹 & triple a vantage GT2にとってはまさにリベンジを賭けた1戦となる。いよいよ速さを取り戻したtriple a vantage GT2が2011年の締め括りにどんなレースを見せるのか、JAF杯は見逃せない注目の1戦となる。

11' SUPER GT SERIES Round 8 / MOTEGI

2011.10.16 (Sun) Final

Text: [www.hiroki-yoshimoto.com](http://www.hiroki-yoshimoto.com)

Aspeed Official Site: <http://www.aspeed.co.jp/>

SUPER GT SERIES Official Site: <http://www.supergt.net/jp/>

吉本大樹 Official Site: <http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

### PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&I

VAPSn XPEL  
Car Protection Specialist

OH! osaka hall

TAKAI  
CORPORATION INC.

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

### PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED

HY Management Co., Ltd.  
info@hy-management.com  
www.hiroki-yoshimoto.com



# Hiroki Yoshimoto Official Report

No. 111019152-3



www.hiroki-yoshimoto.com

## Race Report

15-16 October 2011 / SUPER GT SERIES Round\_8 MOTEGI

【吉本大樹コメント】

今季は本当に雨が多かったですね。決勝までスリックを履くことがなかったのですが、これまでウェット路面でのグリップに悩んでいたのが信じられない位に今回ヨコハマタイヤさんが用意してくれたインターミディエイト(浅溝タイヤ)が非常に良くて、ヘビーレイン以外は全ての作業が非常にスムーズに行きました。

予選で久しぶりに本来我々がいるべきポジションに立つ事ができ、決勝へは期待でいっぱいでしたが、同時に決勝は全車初めてスリックでの出走。これは持ち込みセットや、ウェット路面からの想定セット能力、タイヤの選択等難しい問題もありました。

しかし、セッティングも良く、タイヤもしっかりとワンステントもってくれました。ピットでのロスが無ければもしかしてもしかしたら11号車に追いつけていた可能性もあるかもしれませんが、紙一重です。出せるものは全て出し切りましたし、結果的にはベストなレースが出来たと思います。マシンから降りるまで脱水症状だということは無線でも言わなかったのですが、実際自分でも乗っている時はそんなことも忘れるくらいに集中していました。良いレースでした。コンディション変化の厳しい前半を良いポジションで繋いでくれた一樹君(星野一樹選手)にも感謝です。

開幕戦と第2戦が入れ替わって始まった2011年シーズン。最初に行われた第2戦富士は自分の判断ミスで浅溝タイヤを無理して履き続けてクラッシュからリタイヤしてチームに迷惑をかけました。次に行われた開幕戦で優勝。そこからどんどん歯車が崩れ、どん底にも行きました。しかし、チーム内でのミーティングや監督との密な打ち合わせ、チームワークで最終戦には帳尻を合わせて再び強いA SPEEDに戻る事ができました。2年目のチームとして与えられた試練をしっかりと乗り越えたと思います。しかし、チャンピオンシップを考えただけでは全ての動きが遅すぎた。まだまだ青いです。優勝しているチームとしてはぶっちぎってピリのシリーズ8位。正直悔しいです。本来我々はこんなものではないです。それでも最後に本来の姿をお見せする事ができたことが何よりも嬉しかったです。

今季はA SPEED初の優勝も経験できました。応援して下さいましたファンの皆様、スポンサー様、ヨコハマタイヤ様、チームスタッフの皆様、一樹君を始めモータースポーツを愛する皆さんに感謝します。ちょっぴり残った悔しさはノンタイトル戦であるJAF戦でしっかりぶつけたいと思います。

ひとまず2011年Super GTシーズンへの応援ありがとうございました。JAF戦でも応援の程宜しくお願い致します。



### PERSONAL SPONSORS

**TWS**

**Corniche**

**S&I**

**VAPSn XPEL**  
Car Protection Specialist

**osaka hall**

**TAKAI**  
CORPORATION INC.

**esprit** Car Beauty Factory

**金剛防災**

### PARTNERS

**PL0T2**

**Arai**

**SIDEWINDERS**

**HY SPEED**

HY Management Co., Ltd.  
info@hy-management.com  
www.hiroki-yoshimoto.com